

ボランティアの心構え

1. 約束は守る。責任はキチンともつこと。

ボランティアだからといって約束ごとを簡単に考えてはいけません。約束ごとは必ず守り、万一都合が悪くなった場合は、事前に先方へ必ず連絡し了承を得ましょう。

2. 活動先のプライバシーは他言してはいけません。

活動上、知り得たプライバシーは絶対に他人に漏らしてはいけません。(守秘義務)

3. まず相手の生活があつての活動であると肝に命じておきましょう。

在宅の方は、これまで過ごしてきた生活習慣があります。生活のリズムを無視した行為はやめましょう。また、施設の利用者も、身体状況等に応じた福祉サービスが提供されております。相手の生活をまず考え、一方的なボランティア活動の押し売りはやめましょう。

4. 目上の人には必ず「さん」づけで呼びましょう。

例えば、老人ホームなどで「おじいちゃん」「おばあちゃん」と呼ぶよりも「田中さん」など目上の方に対し尊敬の念を忘れずに、呼ぶときも原則的には名字で呼ぶように心がけてください。但し、愛称で呼ばれている場合などもありますので、要は相手が不快にならないようにケースバイケースで…。名前は施設職員に尋ねるようにしましょう。(障害児施設などでも同じです。)

5. ボランティア活動保険にはできるだけ加入しましょう。

安心してボランティア活動を始めするためにも、ボランティア活動保険に加入することをお勧めします。

6. 活動を決める際は、活動先と内容を充分確認しましょう。

活動先と活動内容は必ず事前に確認し、充分納得したうえで活動してください。万一、希望する活動と一致しなかった場合はキチンと断ることも大切です。

7. 挨拶は元気よく、早く仲良くなるよう心がけましょう。

活動先での挨拶は笑顔とハッキリした声で。一日も早く、皆さんと和むよう心がけましょう。

8. 気負わず、無理せず、自然に、楽しく活動しましょう。

どうしても、最初は無理な活動をしたり、活動のために私生活のリズムまで崩したりしがちですが、決して良い結果は得られません。無理せず、自分のペースで長く活動を続けることが理想です。

9. 相手から学ばせていただく姿勢が大切。

ボランティア活動は、相手からかけがえのない喜びや感動を得ることができます。「...してやっている。」「...してやったのにお礼の言葉もない」などといった傲慢な考えや態度で接することはもってのほかです。